

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告（令和4年度分）

＜県の評価等＞

施設所管部名： 県土整備部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	県営都市公園 北勢中央公園（四日市市西村町地内）
指定管理者の名称等	株式会社名阪造園 代表取締役 田中清平（四日市市野田2丁目5-23）
指定の期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・公園の維持修繕及び巡視点検に関する業務 ・公園の利用者への案内に関する業務 ・条例に基づく公園の利用時間の変更、公園内の行為の制限、利用の禁止又は制限 ・公園施設のうち野球場、テニスコートの利用の許可 ・公園の利用の促進 ・その他の業務

2 施設設置者としての県の評価

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R3	R4	R3	R4	
1 管理業務の実施状況	B	B			植物管理や公園施設の管理を適切に行った。 また、生物調査に基づく苗木の育成や植栽の実施、枝葉など副産物の再生利用など、特色ある取組を行った。
2 施設の利用状況	B	B			公園ホームページやSNSを活用した情報発信を行うとともに、感染症対策を行った上で園内写真の撮影イベントなどを開催し、公園の利用促進に努めた。
3 成果目標及びその実績	D	D	+	+	年間利用者数は、成果目標の23万5千人に対し、175,803人だった。ただし、外的要因が大きいこと、そして利用促進の取組を適切に行っていることから、「+」評価とした。

※「評価の項目」の県の評価：
 「+」（プラス） → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
 「-」（マイナス） → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
 「 」 （空白） → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>（指定管理者の評価に対する県の評価）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「管理業務の実施状況」は、業務仕様書に基づき適切に行っており、指定管理者の自己評価と同じ評価とした。 ・「施設の利用状況」は、昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響で集客が困難な中、感染防止対策を徹底した上でのイベント開催や、Webを活用した情報発信などを行って集客に努めたことから、指定管理者の自己評価と同じ評価とした。 ・「成果目標及びその実績」は、成果目標である年間公園利用者数の達成率が74.8%と80%未満であり、定量的な基準に基づく自己評価はD評価となる。ただし、北勢地域の新型コロナウイルス感染症の感染状況が県内でも顕著で集客イベントの開催に慎重にならざるを得なかったことや、野球場利用が低調であったことなどから公園利用者数が減少した中でも、自主事業として当公園の環境を活かしてホテル観察会やカブトムシの幼虫掘り体験、園内写真の募集など野外での体験型イベントを行うなど、感染対策に留意しながら公園の利用促進に最大限努め、かつ公園利用者の満足度も85.7%と高かったことから、県としては「+評価」とし、指定管理者の自己評価より高く評価した。 <p>（今後の課題又は指定管理者への期待）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者には、利用者の安全確保に向けた施設の適切な維持管理の徹底とともに、野球場やテニスコートといったスポーツ施設と、自然林や里山保存エリアなどの恵まれた自然をともに有する当公園の特色を最大限に生かす利用促進策の更なる展開を期待する。
--------	--

<指定管理者の評価・報告書（令和4年度分）>

指定管理者の名称： 株式会社名阪造園

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

① 県営都市公園事業の実施に関する業務

- 公園の利用促進として、感染防止対策を徹底しながら年13回のイベントを実施した。
(主なイベント)

上期 (4~9月)	北中の春と初夏フォト募集(4~6月)、緑化月間イベント(4~6月)、ホテル観察会(5月)、北勢3公園合同キーワードを探せ(4~6月)
下期 (10~3月)	都市公園緑化月間(10月)、秋のフォト募集(11月)、秋の公園DAY(11月)、門松づくり(12月)、凧揚げ(1月)、竹配布(1月)、腐葉土配布(2月)、野鳥観察会(2月)、カブトムシ幼虫掘り(3月)

- 園内環境の維持のため、緑地管理を徹底した他、スズメバチの巣の撤去等を行った。
- 生物多様性を重視し、苗木の育成、苗木の植栽、既存生物調査等を継続的に実施した。
- SNSやブログ等で日々の情報やイベント告知の発信を行った。

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- 電気・消防・上水道・浄化槽設備の点検、遊具定期点検は、専門業者に委託して実施した。また、毎日の巡回時において、目視等で日常点検を行い、異常の早期発見に努めた。
- 園内施設の修繕実施は次のとおりである。
石段敷石の補修(水のプラザ)、防風ネットの修理、人工芝の部分張替(テニスコート)、土の補充、破損した塁ベースの補修(野球場)、降雪に伴う低温で生じた漏水への対応(男子トイレ小便器及び芝生広場水道栓)、トイレステンドグラス目地へのコーキング処理(芝生広場南・西・東トイレ)

③ 県施策への配慮に関する業務

- 緑地管理で生じた竹・枝・葉のチップ化や堆肥化〔持続可能な循環型社会の創造に向けた環境保全活動〕
- 人柄、適性、能力を重視し、性別に関係なく幅広い人材をスタッフとして採用〔男女共同参画社会の実現〕
- 子育てと仕事を両立できる体制づくり〔次世代育成支援の推進〕

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

- 各種規程に基づき適切に実施した。なお、令和4年度に文書の開示請求はなかった。
- 個人情報保護管理マニュアルに基づき、スタッフを対象とした研修会を実施した。

⑤ その他の業務

- 不適切な公園利用に対する指導を適宜行った(例：スケートボード等)
- 窃盗事案の発生に際しては、県への報告や関係機関への通報等を適切に行った。
また、再発防止に向けて、警告看板等の掲示や、正面ゲートの毎日閉門、自動販売機設置場所への防犯装置(監視カメラ付き人感センサーライト)の設置を行った。
- 県が策定した「県営都市公園の利用に関するガイドライン」に基づき、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を適切に行った。

(2) 施設の利用状況

<目標>	年間公園利用者数	235,000人		
<実績>	年間公園利用者数	175,803人	(前年度：177,234人)	対比：99.2%
	(内訳)			
	園内利用者数	139,022人	(前年度：135,915人)	対比：102.3%
	野球場利用者数	10,753人	(前年度：14,470人)	対比：74.3%
	テニスコート利用者数	26,028人	(前年度：26,849人)	対比：96.9%

2 利用料金の収入の実績

7,488,140 円
●有料施設の利用に伴う収入 <目標> 10,650,000 円 (管理目標として設定) <実績> 7,484,180 円 (内訳) 野球場 1,251,910 円 テニスコート 6,232,270 円
●行為許可に伴う収入 ロケーション (入学式等の記念撮影) 3 件 3,960 円

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位：円)

収入の部			支出の部		
	R3	R4		R3	R4
指定管理料	64,577,040	64,071,800	事業費	41,355,147	40,404,243
利用料金収入	8,336,020	7,488,140	管理費	30,911,346	31,644,162
その他の収入	688,604	688,676	その他の支出	0	0
合計(a)	73,601,664	72,248,616	合計(b)	72,266,493	72,048,405
収支差額 (a)-(b)	1,335,171	200,211	/		

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	— (減免実績なし)
---------	------------

4 成果目標とその実績

成果目標	年間公園利用者数 235,000 人
成果目標に対する実績	年間公園利用者数 175,803 人
今後の取組方針	<p>令和4年度の公園利用者数は、成果目標数値を下回り、令和3年度実績と比べてほぼ横ばいとなる結果だった。</p> <p>今後は、コロナ禍前に公園を訪れていた方が再び公園を訪れるためのきっかけとなるような魅力的なイベントの実施・誘致を更に進めるとともに、スポーツ施設と豊かな里山環境を共に有する恵まれた園内環境を活かし、新たな客層の獲得にも挑戦していく必要がある。</p> <p>そのため、具体的に令和5年度からの新しい指定管理期間においては、今までは行っていなかった夜のイベント(虫とりイベント)の開催や、園内をめぐるセルフガイドツアーを推進する看板整備を進めて、新規客層を獲得し、さらには何度でも公園を訪れていただく仕掛けづくりを全力で進めていく。</p>

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R3	R4	
1 管理業務の実施状況	B	B	公園の適切な利用に関する案内、公園施設の日常点検や清掃、公園全体における適切な緑地管理を随時行い、利用者が安らぐことができる、安全・安心な場の提供に努めた。
2 施設の利用状況	B	B	公園の適正な維持管理等の実施により利用促進を図った。 新型コロナウイルス感染症の影響から、有料施設の利用者数、そして有料施設で行われる試合の観覧利用が共に減ってしまった。
3 成果目標及びその実績	D	D	令和4年度の年間公園利用者数は175,803人となり、成果目標の23万5千人に対し74.8%の達成率で、目標を達成できなかった。 アフターコロナを見据え、利用拡大に向けてイベントの実施・誘致に努める。

※評価の項目「1」
の評価 :

「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 業務計画を順調に実施している。
「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」
「3」の評価 :

「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 当初の目標を達成している。
「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な 評価	<p>●上記の評価に至った理由 〔管理業務の実施状況〕 業務仕様書に基づき植物管理や施設管理を適切に行い、利用者が安らぐことのできる安全・安心な場の提供に努めた。</p> <p>〔施設の利用状況、成果目標及びその実績〕 年間来園者数について、目標人数を達成できなかったが、感染対策等を徹底しながら、利用者が安全・安心に利用できるよう施設維持に取り組んだ。 一方、令和4年度の公園利用者数は、特に新型コロナウイルス感染症の影響が依然として大きく、スポーツ利用者に加えて大会観覧者の減も大きくなって、成果目標を下回る結果となったと推察する。</p> <p>●残されている課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 公園施設の老朽化が進行している。公園利用者の安全確保と満足度向上のため、県と連携して、計画的に設備等の更新や修理・修繕を進めていく必要がある。 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、外出機会の減少が常態化して公園利用者数が回復していない。徐々にパンデミックから日常に戻りつつある中で、再び公園を訪れるきっかけとなるような魅力的なイベントの実施・誘致を積極的に行うとともに、公園のPRを更に積極的に行うことで、公園の利用促進を図っていく必要がある。 <p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者アンケートでは、“総合的に良い”“まあ良い”の割合が86%であった。今後も継続して利用者の満足度を保持できるよう努める。 新型コロナウイルス感染症の影響による有料施設の稼働率低下に伴って利用料収入が減少する一方、エネルギー価格の高騰などで光熱費が前年度より8.5%上昇したが、業務の効率化を図る等のコスト削減の更なる取り組みを行うことで対応した。
------------	--